

空間  
Spacing Experiences

Experiencing Spaces

空間  
空間

そこで何  
*What can happen there?*

が起きているのか？

梅田哲也

小山田徹

田口行弘

2018.11.23 [金祝] > 12.24 [月] [無休]

[企画展] ミュージアムとの創造的対話02 *Creative Dialogues with Museum*

会場=鳥取県立博物館 開館時間=午前9時—午後5時 ◎入館は閉館の30分前まで [休館日12.10 土]

主催=鳥取県立博物館 協賛=日本通運、株式会社モリックスジャパン、株式会社西備総合電設、三和商事株式会社

 鳥取県立博物館  
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM



鳥取県立博物館は、1972年の開館以来今日まで、調査研究に基づく資料の収集や展覧会及び教育普及プログラムを通して、文化芸術を保存し、次世代へ継承していくための活動を行ってきました。これをさらに広げ、これからのミュージアムの可能性を開く試みとして、2017年よりシリーズ展「ミュージアムとの創造的対話」を開始しました。本シリーズでは、ミュージアムを巡る問いを契機に、国内外の優れたアーティストによる実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させることで、思考を促し、人やモノ、場との対話を重ねながら、その現代的な意味を探っていきたいと思います。

第2回目の今回は、ミュージアムの重要な要素／機能のひとつである「空間」とそこでの「経験」のあり方に着目し、作品と鑑賞者との間の関係性の問い直しを図ります。あらゆるミュージアムには展示室という空間が備えられ、そこで催される展覧会では来場者それぞれが作品と対峙し、吟味し、意味や文脈を読み取り、自分の経験を動員して様々な想いを巡らす「鑑賞」が行われます。このような行為は、日常生活においてはほとんどなされない独特の経験であり、それゆえミュージアムが特別な場所であることを物語っています。こうしたミュージアム空間における経験のあり方は、美術における表現の多様化によって著しく変化してきました。本展では、梅田哲也、小山田徹、田口行弘の3名のアーティストの作品を手掛かりに、展示空間-作品-経験のあいだで生じる相互作用-「そこで何が起きているのか」について考えてみたいと思います。

平成30年度[企画展]

## ミュージアムとの創造的対話02 Creative Dialogues with Museum

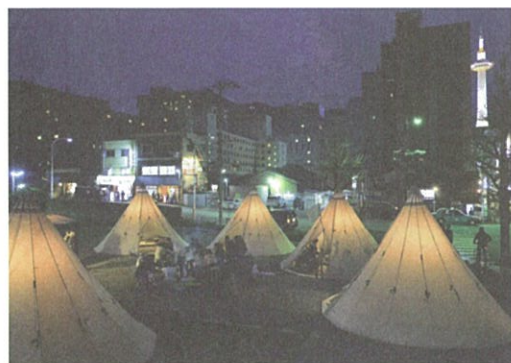
# 空間 Spacing Experiences / 経験 Experiencing Spaces



梅田哲也(Black out EXPO)2009

### 梅田哲也 Tetsuya Umeda

美術家。1980年熊本県生まれ。時間と空間を基調に、建築構造から観客の行動まで、とりまく状況全般を素材としたインスタレーションを展開。既存の展示空間のみならず、都市空間や自然のなかでサイトスペシフィックな作品も多く手掛ける。近年の展覧会に「札幌国際芸術祭2017」、「東海岸大地芸術節」(台東、2018)、個展では「SCIENCE DE LA SUPERSTITION」(Instants Chavires、モントリオール、2015年)、「See, Look at Observed what Watching is」(Portland Institute for Contemporary Art、ポートランド、2016)など。劇場の機能にフォーカスした舞台作品や、中心点をもたない合唱のプロジェクトなど現地の人を巻き込んだパフォーマンス作品を手掛け、「Kunstenfestivaldesarts」(ブリュッセル、2017)、「Tectonics 2018-2019」(グラスゴー/スタヴァンガー/アテネ)など、パフォーマンス・アーツや音楽のフェスティバルにおいても作品を発表。



小山田徹(Weekend café 2017, Kyoto, Sujin) 2017

2018.11.23 [金祝] > 12.24 [月休]

会場＝鳥取県立博物館

開館時間＝午前9時～午後5時 ◎入館は閉館の30分前まで[休館日12.10(日)]

観覧料＝一般600円/前売20名以上の団体料金＝400円

◎次の方は無料です/大学生以下/学校教育活動での引率者/70歳以上の方/障がいのある方/難病患者の方/要介護者等及びその介護者

| 交通のご案内 |

- JR鳥取駅から
- ▶バスで◎100円バス「くる梨(緑コース)」で「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
- ループ越前獅子「③鳥取城跡」下車すぐ ◎砂丘、湖山、賀露方面行「西町」下車約400m
- ④市内回り岩倉、中河原方面行「わらべ館前」下車約600m
- ▶タクシーで約10分
- 鳥取空港から▶鳥取駅行空港連絡バスで「西町」下車約400m
- お車で▶鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください) 上っとり県民カレッジ連携講座

### Yukihiko Taguchi 田口行弘

1980年大阪府生まれ。2004年に東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業後、ベルリンに拠点を構えてドイツやオランダ、フランス、キューバ、モルディブなど世界各地の展覧会やレジデンス、アートプロジェクトなどに参加。デジタルカメラを使ったストップモーション技法を用い、屋外のパブリックスペースで日常空間にある既存の物事を少しずつ移動させながら、もうひとつのイメージネーション世界への亀裂を生じさせるアニメーション映像を制作している。周囲の環境や人間関係に介入し関係を作り変えてゆく制作過程そのものが、ワークショップやパフォーマンスの要素をはらんでいる。2008年に文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞およびアジアデジタルアート大賞優秀賞を受賞。Reborn-Art Festival(宮城、2017)、越後妻有大地の芸術祭(新潟、2018)など国内外で精力的に作品発表を行っている。



田口行弘(Terasu)アコースティック、ドイツ 2015  
photo:Yukihiko Taguchi, Courtesy of the artist and MUJIN-TO Production

そこで何が  
起こって  
いるのか?

会場が展示室内の場合には要観覧料。その他はすべて参加無料です。

#### ■OpeningTalk | オープニングスペシャルトーク

出演:梅田哲也、小山田徹、田口行弘、尾崎信一郎(鳥取県立博物館副館長)  
進行:赤井あずみ(担当学芸員)  
11月23日(金祝)14:00~15:30 | 鳥取県立博物館 2階講堂

#### ■Workshop | 田口行弘 | Particles' moment

展示室のインスタレーション空間で、アニメーション、ストップモーション、映像等の制作を作家と一緒にいきます。  
11月24日(土)15:00~17:00 | 鳥取県立博物館 第2特別展示室 | 15名程度(先着順)

#### ■Event | 小山田徹 | 「小さな火床」に集う

太古の昔から、人が集い、時間を共有する場であった「小さな火」がつくる極小の空間を体験します。火で炙って楽しむ食べ物や飲み物の差し入れ大歓迎!  
時間はすべて17:00~20:00(雨天中止)/11月24日(土) | 鳥取県立博物館 前庭  
11月25日(日) | 岩戸海岸海水浴場/12月8日(土) | 豊いの道(米子市立図書館裏 広場)  
12月9日(日) | 東郷湖畔公園(湯瀬浜町) | 12月24日(月・振休) | 大御堂慶寺跡(倉吉市宮ラグビー場横)  
※会場の詳細についてはwebsiteをご確認ください。

#### ■Open Dialogue 01 | 学芸員との創造的対話

学芸員とともにテーブルを囲みながら、それぞれの作品の経験について語り合います。  
12月1日(土)、15日(土)14:00-15:00 | 鳥取県立博物館 第2特別展示室

#### ■Open Dialogue 02 | 梅田哲也×学芸員たち

自然・人文・美術の学芸員たちが各分野における資料や保存、展示について話し、「何を遺し、伝えるのか」というミュージアムの本質に迫ります。  
12月22日(土)14:00~16:00 | 鳥取県立博物館 館内

#### ■Open Dialogue 03 | 小山田徹×酒井雅代(当館学芸員・考古担当)

「観る悦楽 | 愛の視線としての実測図」  
出品作家の小山田徹と考古担当学芸員が「実測図」を描いた人たちの「愛でる視線」とそこから見てくるものについて語り合います。  
12月23日(日)14:00~15:30 | 鳥取県立博物館 第2特別展示室

#### ■Performance | 梅田哲也

出品作家・梅田哲也によるパフォーマンスを上演します。  
12月23日(日)17:00~ | 鳥取県立博物館 敷地内



お客様の満足のその先へ...

**MORRIX**  
株式会社モリックスジャパン  
TEL 0857-23-3641  
本社 鳥取市南栄町2-03-6  
倉吉店 倉吉市下田町87-0 中瀬ビル3F  
http://www.morrix.co.jp/

引越しは日通  
フリーダイヤル ひっこしはにっつう  
0120-154022